**旭川大学　小児看護学実習評価表（幼稚園実習および病院施設実習）**

実習場所：　　　　　　幼稚園　　　　　　　　　病院

実習期間：　　月　　日　（　）～　　月　　日　（　）

学生番号：　　　　　　　　　学生氏名：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 評価視点 | **評　　価　　項　　目** | **学生評価** | **総合評価** |
| 対象理解 | 1 小児の成長・発達の特徴および個人差・個別性のあることが理解  できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 2 小児の成長・発達を促進させる生活環境と大人の役割を考えるこ  とができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 3 健康を障害された小児の日常生活が理解できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 4 健康を障害された小児とその家族への影響が理解できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 看護過程  の展開 | 1 既習の情報枠組みを使用し必要な情報の整理および看護アセスメ  ントができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 2 対象の看護問題および看護目標を明らかにすることができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 3 対象に必要な看護援助を行うための計画立案ができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 4 立案した看護計画を評価することができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 対象との  コミュニケーション | 1 小児の発達段階を考慮したコミュニケーションがとれる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 2 健康を障害された小児とその家族の状況を考慮したコミュニケー  ションがとれる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 3小児の発達段階に応じた説明と自己決定を尊重する倫理的態度で  関わることができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 対象への  看護援助 | 1 健康を障害された小児とその家族の状況を考慮し必要な看護援助  を考えることができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 2 健康障害による影響や小児の個別性を考慮した看護援助の工夫を  考えることができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 3小児とその家族の安全・安楽を考慮した看護援助を実施すること  ができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 4 体験あるいは見学した看護援助を振り返り評価することができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 実習態度 | 1 実習に必要な事前学習や補足学習は主体的に行うことができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 2 連絡・報告・相談を行い、助言を受け入れ主体的に取り組むこと  ができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 3 看護学生にふさわしい言葉使いや身だしなみ、健康管理など責任  ある行動がとれる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 4 カンファレンスでは積極的に意見交換でき、学びを共有すること  ができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 5 実習記録物は提出期日までに提出することができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
|  | 合計点 |  |  |
| 評価基準 | A（5点）：指導を受け主体的に達成できた  B（4点）：指導や助言を受けながら達成できた  C（3点）：多くの指導や助言を受けながら達成できた  D（2点）：多くの指導や助言を受けながらなんとか達成できた  E（1点）：多くの指導や助言を受けたが達成できなかった | | |

|  |
| --- |
| 小児看護学実習に対する学生の振り返り |
|  |

　　　　　　　　　　　　　　　　　小児看護学実習記録　様式9号